

全体の進捗状況

	令和5年度	(参考) 令和4年度
S : 中期目標の達成に向けて特筆すべき進行状況にある	23項目 / 75項目	24項目 / 75項目
A : 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる	14項目 / 75項目	19項目 / 75項目
B : 中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる	34項目 / 75項目	28項目 / 75項目
C : 中期目標の達成のためにはやや遅れている	2項目 / 75項目	1項目 / 75項目
D : 中期目標の達成のためには重大な改善事項がある	2項目 / 75項目	3項目 / 75項目

【分野別判定】

分野	S	A	B	C	D
地域貢献 (教育)	4	1	6	0	0
地域貢献 (研究)	1	0	0	0	0
地域貢献 (診療)	2	6	2	2	1
教育	1	2	16	0	0
研究	5	0	1	0	0
診療	4	1	2	0	1
法人運営	6	4	7	0	0
合計	23	14	34	2	2

## 進捗している主な項目

※特に進捗している項目として以下の項目があげられる。

目標分野	【価値目標(KGI)(県の願い)】	番号	【実現目標(KPI)】	令和5年度目標 (中期計画・年度計画)	実績	医大の取り組み状況	
地域貢献 (教育)	医師の偏在・散在の解消	7	医師が不足するへき地や診療科、診療分野に従事する医師数の増加	100人 (累計)	108人 (累計)	<p>県費奨学生のキャリア形成支援のため、奨学生面談(対象:本学学生、近畿大学生、卒後医師、保護者)の実施及び臨床研修病院説明会を開催した。</p> <p>県費奨学生の離脱防止のため、新入生及び保護者への奨学金制度説明会、奨学生総会の実施や機関紙の発行を行い、奨学金制度へ理解促進を図った。</p>	
地域貢献 (研究)	地域に根ざし地域と歩む研究の推進	12	県民健康増進支援センターによる県・市町村及び民間医療機関等の支援の新規件数(累計)の増加	45件 (累計)	63件 (累計)	<p>科学的根拠に基づく保健・医療・介護の計画策定を支援するために健康増進計画や関連計画に関する委員会や事業評価の会議への参画、計画や事業への専門的知見からの助言、ロジックモデルの作成支援、研修会等講演等、健康関連事業の相談指導、その他を実施した。新規支援先拡大のため、ホームページを大幅に見直しPR活動に努めた。共同研究や公的統計を用いた研究活動を展開した。</p>	
地域貢献 (診療)	病連携・病診連携の推進	20	高い逆紹介率の維持	82%以上	106%	<p>初診紹介患者促進のため「初診予約の手引き」を刊行し県内および近隣の医療機関に配付した(約1100機関)。「連携登録医のつどい」においては、あらたな取り組みとして、連携登録医以外にも参加を促したことで、連携登録医の増加につながった。また、従来の対面開催に加え、WEBによる同時配信を実施した。</p>	
教育	「心の教育」を軸とした「良き医療人」の育成	30	Post-CC OSCE合格率の維持	100%	100%	<p>9月から開始した「選択型臨床実習」の実施にあたり、新たに策定した「診療参加型臨床実習実施要領」を基に診療参加型臨床実習を促進した。また、臨床実習において学生が適切に電子カルテへアクセスし、利用できるよう、学生が閉鎖環境で記載したカルテを指導医が承認することで共有のカルテへ表示されるよう電子カルテシステムの改修を行うとともに、「医学生の電子カルテ利用要領」を新たに制定し、学生及び教員へ研修会を実施し、周知を行った。</p>	
研究	最善の医療に貢献する最先端の研究の実施	45	PubMed対象の英文学術論文数(累計)の増加	2,000件 (累計)	3,937件 (累計)	<p>科研費申請支援事業の実施のほか、研究計画の立案や外部資金の獲得を専門的に支援するため研究力向上支援センター(URA2名)において、科研費申請書の添削、科研費獲得セミナーの開催、科研費を含む外部資金や研究一般に関するニュース等のメール配信、科研費申請に役立つ情報等をまとめたホームページの充実などを行い、科研費申請数の増、採択率の向上に繋げた。</p> <p>研究者の研究補助員としてテクニシャン1名を新たに配置(計テクニシャン4名)するなど人材面でも強化を図り、研究基盤の更なる整備を実施した。</p> <p>研究推進戦略本部会議を毎月開催し、研究力向上に係る課題を検討・企画立案するとともに、課題を解消するため、科研費申請支援事業の実施、横断的共同および若手研究者研究助成事業の選考、文科省の研究不正行為防止ガイドライン体制整備に関する実態調査等を行うなど、研究者への支援策を実施した。</p> <p>外部委員を含む研究評価委員会を年2回開催(12/19,3/7)し、外部委託業者の分析に加え、本学URAによる独自の分析・評価に基づき研究力強化対策を検討した。</p> <p>上記分析や評価を研究推進戦略本部会議の意見を踏まえ、研究力向上支援センター(URA)を中心に支援策を実施した。</p>	
	研究推進体制の適正化と強化	47	文部科学省科研費採択件数(新規+継続)の増加	211件 (累計)	238件 (累計)	<p>本学URA及び外部の民間機関による科研費研究計画調書に対する相談・指導、研究種目ごとに分けた科研費獲得セミナー開催、過年度の科研費採択者の研究計画調書の閲覧や講演会開催、科研費応募スケジュールや科研費申請に役立つ各種ツールなどをまとめたHPの開設、科研費ニュース【Go for it! KAKEN】の定期的な発信などの申請支援を実施し、本学URAの申請指導は採択率が高く、有効な支援となっている。</p>	
診療	患者満足の一層の向上	56	患者満足度調査において「非常に満足」「満足」と回答する割合の維持・向上	外来	90%以上	97.7%	<p>令和5年度より院内に看護部長をリーダーとした医療サービス向上プロジェクトを設置し、中期計画の実現目標を達成するための取組を行うとともに、院内における待ち時間の発生状況の把握、改善に向けた検討及び患者サービスの向上につながる対策を実施していくこととした。</p> <p>A棟の整形外科外来及び脳神経外科外来の診察室、処置室を改修。またB棟個室の改修(床、壁、トイレ、手すり)12室を実施。</p> <p>受付スタッフの接遇向上のため、月間テーマを設定し、医事委託業者による取組を毎月実施。</p>
				入院	90%以上	98.9%	
法人運営	働き方改革の推進	69	男性の育児休業取得率の増加	10%	47.8%	<p>2022年度の法改正に伴い、本学でも配偶者出産時の休暇及び育児休暇の対象範囲を全職員に拡大し、出産関連の手当を申請する職員に対し制度を周知した。</p>	
		72	看護師の在職率の維持	全国平均 -1%	全国平均 -4.0%	<p>離職率は7.8%(全国平均11.8%)。看護師の負担軽減のため、看護職WGにおいて始業前超勤の縮減や、一部病棟における障害者雇用職員へのタスクシフト(ベッドメイク)を継続中。また夜間看護補助者の導入に向け、本学看護学生による業務トライアルを実施して改善点等の洗い出しを行い、本格的に導入している。</p>	

## 進捗が滞っている項目

※CまたはDの項目として、以下の項目があげられる。

\* 医大だけの努力では改善が困難な項目

目標分野	【価値目標(KGI)(県の願い)】	番号	【実現目標(KPI)】	令和5年度目標 (中期計画・年度計画)	実績	医大の取り組み状況
地域貢献 (診療)	県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践	13	中南和地域における重症以上の傷病者搬送事案において医療機関に受入の照会を行った回数4回以上の割合の低下 *	3.7%	5%	e-MATCHを活用した救急コーディネーター事業の確立のため、県、消防機関、当院で構成される「奈良県救急搬送及び医療連携協議会」において、より効率的なe-MATCHの運用方法について検討した。協議会での検討結果に基づき、傷病者の情報が詳細に医療機関に伝わるよう、e-MATCHの改修を行った。 新型コロナウイルス感染症によるクラスター発生等により周辺医療機関の病棟が閉鎖され、他院の救急受け入れ及び他院への転院が不可となる事例が多数発生したことにより、当院の救急病床が満床状態になることも多く、当院において新規の救急患者の受入が困難となるケースがあった。これにより、実績が目標を下回る結果となった。 なお、令和5年5月より新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類相当となり、コロナとの共生がさらに進むことを踏まえ、院内の救急医療・災害対策プロジェクト会議等において、コロナ以前の救急医療体制を再度整えることを確認した。
	病病連携・病診連携の推進	23	糖尿病診療ネットワーク専門医協議会による糖尿病医療に係る非専門医から専門医への紹介数の増加への支援 *	前年度より増加させる	5,957件 (前年度6,284件)	医大が紹介を受けた件数は前年度より増加しているが、医大以外の医療機関での件数が減少したことにより判定が悪化。 奈良県主催の奈良県糖尿病診療ネットワーク専門医協議会参画病院連携担当者向け連絡会議(年2回)に参加し、糖尿病患者に対する地域診療ネットワークの必要性の講演や連携担当者間の情報共有、意見交換を実施。引き続き糖尿病患者に対する地域診療ネットワークの必要性を連携担当者間で情報交換し、意見交換を行っていく。
	各領域の担い手となる医療人の育成	25	臨床研究中核病院の承認を得る	取組実施	「施設」要件はほぼ充足、「人員」「能力」要件において未充足の項目がある	臨床研究中核病院への承認要件の一つとして、3年間で医師主導治験4件、特定臨床研究40件の実施という現在未充足の課題があり、これに対し、今年度の目標として特定臨床研究10件をかかげ、目標どおり10件の開始の目途が立った。来年度はさらなる上積みを目指し、様々な面からの研究支援を継続し、これまで臨床研究経験の少ない診療科への研究実施の働きかけや、臨床研究相談サロンを通じた研究相談事業を来年度も引き続き定期的に開催していく予定である。
診療	県内基幹病院としての機能の充実	54	認定看護師等の増加	13人 (累計)	7人 (累計) 【31人】※ (単年度実績) 特定行為(急性期)3人、 特定行為(在宅)1人	令和5年度認定看護師養成課程に3名が受験し、2名が合格となり令和6年度より受講予定。 意向調査の結果、認定看護師課程への進学を検討及び希望している者は10名であった。これら希望者へのキャリアサポートを継続していくとともに、当院で必要とする分野を明示し、看護師長や看護主任による適任者の発掘を推進した。 認定看護師資格取得を増加させるための体験型研修を開催した。さらに、認定看護師教育課程への受験に関する情報を動画で配信した。 ※【参考指標】 認定看護師、特定行為研修修了者、認定看護管理者の総数

# 公立大学法人奈良県立医科大学中期目標・中期計画の進捗について

価値目標(KGI)	実現目標(KPI)		医大自己判定					
			R1	R2	R3	R4	R5	
			1	医師・看護師・保健師の県内定着	1	県内で臨床研修を行う県立医大卒業医の県内基幹病院における専攻医登録率の確保	A	A
		2	医学科卒業生の県内就業率の確保	B	C	B	B	B
		3	県内医療需給の動向に関する地域医療対策協議会の検討結果に応じた地域枠の人数の調整	B	C	B	B	B
		4	看護学科卒業生の県内就業率の確保	B	B	B	B	B
		5	看護学科卒業生の保健師の県内就業者数の増加	B	D	B	B	B
2	医師の偏在・散在の解消	6	県立医大医師派遣センター等を通じた地域の医療機関への配置医師数の増加	S	S	S	S	S
		7	医師が不足するへき地や診療科、診療分野に従事する医師数の増加	A	A	A	A	S
3	看護師の質の向上	8	特定行為研修(急性期コース)を修了した看護師数の増加	S	A	S	S	S
		9	専門看護師数の増加	S	B	D	D	B
		10	特定行為研修(在宅コース)を修了した看護師数の増加	S	S	S	S	S
		11	訪問看護ステーションとの連携強化	A	B	A	A	B
4	地域に根ざし地域と歩む研究の推進	12	県民健康増進支援センターによる県・市町村及び民間医療機関等の支援の新規件数(累計)の増加	S	S	S	S	S
5	県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践	13	中南和地域における重症以上の傷病者搬送事案において医療機関に受入の照会を行った回数4回以上の割合の低下	S	S	D	D	D
		14	24時間365日ER型救急医療体制の確立	B	B	A	A	A
		15	救急隊からの受入照会に対する受入率の向上	B	B	C	C	B
		16	新生児の県内受入率及びハイリスク妊婦の県内受入率の向上	A	A	A	A	A
		17	災害医療を支えるDMATチームの育成	S	S	S	S	S
		18	教職員に対するBCPの周知徹底や他機関との連携を想定した災害医療訓練の検討及び実施	B	B	A	A	A
6	病病連携・病診連携の推進	19	高い紹介率の維持	A	A	A	A	A
		20	高い逆紹介率の維持	A	S	A	A	S
		21	総合診療科における在宅医療部門を設立	B	B	A	A	A
		22	近隣病院との新たな連携の構築	A	B	A	A	A
		23	糖尿病診療ネットワーク専門医協会による糖尿病医療に係る非専門医から専門医への紹介数の増加への支援	—	—	S	S	C
		24	糖尿病専門医養成数の増加	B	D	B	B	B
7	各領域の担い手となる医療人の育成	25	臨床研究中核病院の承認を得る	B	A	B	B	C
8	「心の教育」を軸とした「良き医療人」の育成	26	高度医療における、患者の理解と自己選択を促すコミュニケーションを習得するための学習の充実	S	B	A	A	B
			急性期医療における、患者の理解や受容を促すコミュニケーションを習得するための学習の充実					
			慢性疾患における、患者に寄り添うコミュニケーションや多職種連携を習得するための学習の充実					
		27	医師・看護師・保健師・助産師の現役卒業生の国家試験合格率の向上	A	A	S	S	A
		28	「良き医療人」の資質を持った受験生を増加させるための新たな広報活動の展開	A	C	B	B	B
		29	「良き医療人」育成にかかる教養・基礎・臨床・看護各分野におけるカリキュラムの最適化 ①CBT合格率の向上	S	S	S	S	A
		30	②Post-CC OSCE合格率の維持	S	D	S	S	S
		31	③看護技術項目到達度チェックリストの到達度平均の向上	B	B	B	B	B
		32	臨床実習における学生の経験内容を評価・充実	B	B	B	B	B
		33	教養教育科目の見直し	B	B	A	A	B
9	教員の教育能力開発と教育全般に関する360度評価	34	アクティブ・ラーニングの推進 5つの手法の実施(反転授業、e-ラーニング、小グループ講義、形成的評価、臨床実習の360度評価)	A	A	A	A	B
		35	授業手法改善のためのワークショップ等の参加率の向上	A	B	B	B	B
		36	高度な教育・研究力を持った看護系教員養成のための看護学研究科の設置	A	B	B	B	B
		37	学習内容や教育手法の充実度について、各科目単位で学生からの評価を実施・向上	A	B	B	B	B
		38	医学教育分野別評価	A	B	B	B	B
		39	看護学教育分野別認証評価	A	B	B	B	B
10	学生への支援の推進	40	成績下位者に対する学習支援の実施	B	B	B	B	B
		41	学生の自主研究・生涯学習の態度及び研究マインドの育成の支援	B	D	B	B	B

# 公立大学法人奈良県立医科大学中期目標・中期計画の進捗について

価値目標(KGI)	実現目標(KPI)		医大自己判定				
			R1	R2	R3	R4	R5
			11 学習環境と教育環境の充実	42 県と連携して新キャンパス先行整備の竣工を目指すとともに、継続整備について検討	B	B	B
	43 修学環境の改善	B	B	B	B	B	
	44 地域社会から期待される医学・看護学・医療分野のリーダーとなれる人材の養成	B	B	B	B	B	
12 最善の医療に貢献する最先端の研究の実施	45 PubMed対象の英文学術論文数(累計)の増加	S	S	S	S	S	
13 横連携・他分野連携の推進	46 民間企業や他学部との共同研究件数(累計)の増加	S	S	S	S	S	
14 研究推進体制の適正化と強化	47 研究推進体制の適正化と強化の推進 (1)文部科学省科研費採択件数(新規+継続)の増加	A	A	S	S	S	
	48 (2)研究活動不正防止研修の受講者数(累計)の増加	A	A	S	S	S	
	49 若手研究者・女性研究者の支援 (1)若手研究採択件数(新規+継続)の増加	S	S	S	S	S	
	50 (2)女性研究者数(医学科女性教員割合)の増加	A	A	B	B	B	
15 県内基幹病院としての機能の充実	51 低侵襲手術、高精度放射線治療、精密治療としての薬物療法等を含めた質の高いがん治療実施比率の向上	B	B	A	A	B	
	52 肝炎医療コーディネーター養成数	S	C	S	S	S	
	53 臨床指標(クリニカルインディケーター)の改善	S	B	S	S	S	
	54 認定看護師等の増加	D	D	D	D	D	
	55 新外来棟等附属病院整備計画の検討	C	A	B	B	B	
16 患者満足の一層の向上	56 患者満足度調査において「非常に満足」「満足」と回答する割合の維持・向上	S	S	S	S	S	
	57 患者満足度調査において診察の待ち時間について「不満」「やや不満」と回答する割合の維持・減少	B	S	B	B	A	
	58 ホスピタリティマインド醸成研修受講者アンケートにおいて「業務に活用できる」「研修内容を理解できた」と回答する割合の向上	B	C	S	S	S	
17 安全な医療体制の確立	59 患者安全対策提案数の増加	B	B	A	A	A	
18 ガバナンス体制の確立	60 評価委員会の全体評価での好成績の維持	A	B	-	-	-	
	61 教育、研究、法人運営等の情報発信の推進	A	B	A	A	A	
19 医療費適正化の推進とそれを支える費用構造改革の徹底による持続可能な経営基盤の確立	62 繰越欠損金の縮減	C	S	S	S	S	
	63 未来への飛躍基金寄附実績の増加	S	S	S	S	S	
	64 院内処方の影響を除いた医薬収益に対する医薬品比率、診療材料費比率の維持	A	S	A	A	A	
	65 院内処方の影響を除いた医薬収益に対する労務系委託費+給与費合計比率の改善(低下)	B	B	B	B	B	
	66 後発医薬品の使用割合(数量ベース)の向上	B	B	B	B	B	
20 働き方改革の推進	67 教職員を対象とする「ワークライフバランスに関するアンケート」の項目における満足度の向上	B	S	B	B	B	
	68 年次有給休暇取得日数の増加	S	S	S	S	S	
	69 男性の育児休業取得率の増加	A	S	S	S	S	
	70 超過勤務の縮減	C	S	B	B	B	
	71 女性医師数(週5日勤務)の増加	B	B	A	A	A	
	72 看護師の在職率の維持	S	S	S	S	S	
	73 復職支援カリキュラムの満足度の向上	S	A	S	S	S	
	74 障害者雇用率の向上	A	A	A	A	B	
21 医療人としての人材育成	75 「医療人育成センター(仮称)」の設置及び運営	C	C	B	B	B	
	76 統計リテラシー醸成	A	B	B	B	B	